

DC静岡ベンチマーク・ファンド

運用報告書(全体版) 第20期

(決算日 2022年4月15日)

(作成対象期間 2021年4月16日～2022年4月15日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、静岡企業の株式へ投資し、中長期的な信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式		
信託期間	無期限（設定日：2002年8月15日）		
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。		
主要投資対象	ベビーファンド	静岡ベンチマーク・マザーファンドの受益証券	
	静岡ベンチマーク・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率		無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率		無制限
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、配当等収益を中心に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。		

最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			T O P I X		株 式 組入比率	株 式 先物比率	純資産 総 額
	(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
16期末(2018年 4 月16日)	25,694	0	22.3	1,736.22	18.5	92.0	3.9	598
17期末(2019年 4 月15日)	23,585	0	△ 8.2	1,627.93	△ 6.2	95.1	4.3	530
18期末(2020年 4 月15日)	20,361	0	△ 13.7	1,434.07	△ 11.9	93.5	5.8	461
19期末(2021年 4 月15日)	28,831	0	41.6	1,959.13	36.6	90.3	1.2	618
20期末(2022年 4 月15日)	26,681	0	△ 7.5	1,896.31	△ 3.2	93.1	5.5	546

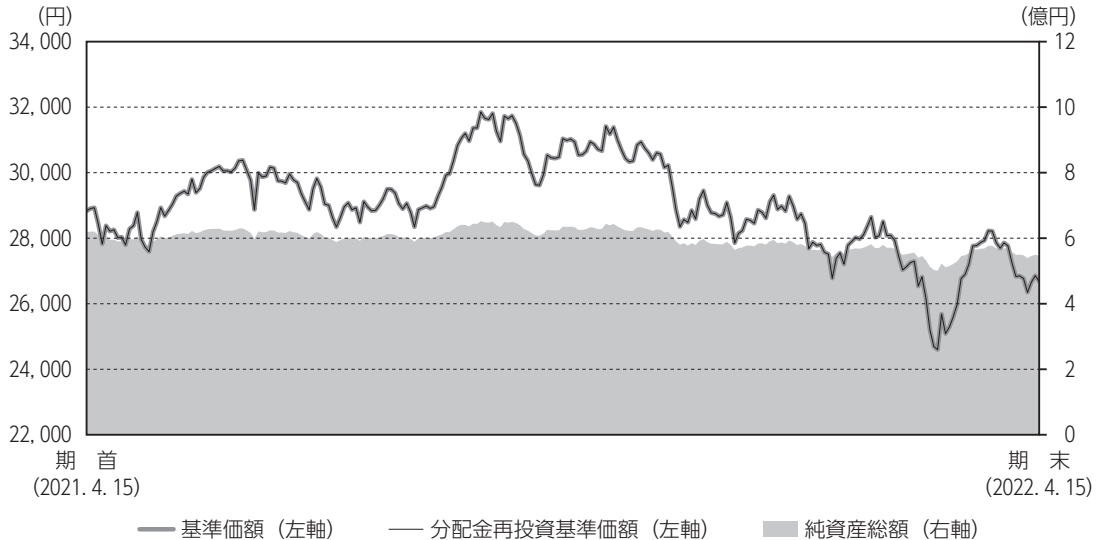
(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注 2) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
(注 3) 株式および株式先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注 4) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

東証株価指数（TOPIX）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期 首：28,831円

期 末：26,681円（分配金 0 円）

騰落率：△7.5%（分配金込み）

基準価額の主な変動要因

ロシアによるウクライナ侵攻や米国の金融引き締めへの懸念を背景に、国内株式市況が軟調に推移したことから、当ファンドに組み入れている静岡企業（※）によるポートフォリオが下落し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※ 静岡県内に本社を置いている企業と、静岡県に進出し雇用を創出している企業

DC 静岡ベンチマーク・ファンド

年 月 日	基 準 価 額		T O P I X		株 式 組入比率	株 式 先物比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
	円	%		%	%	%
(期首) 2021年 4 月15日	28,831	—	1,959.13	—	90.3	1.2
4 月末	27,796	△ 3.6	1,898.24	△ 3.1	92.8	6.5
5 月末	29,395	2.0	1,922.98	△ 1.8	92.7	6.8
6 月末	29,739	3.1	1,943.57	△ 0.8	93.1	6.2
7 月末	28,489	△ 1.2	1,901.08	△ 3.0	93.2	6.4
8 月末	29,558	2.5	1,960.70	0.1	93.5	5.7
9 月末	31,139	8.0	2,030.16	3.6	94.5	4.4
10月末	30,664	6.4	2,001.18	2.1	94.7	5.0
11月末	28,353	△ 1.7	1,928.35	△ 1.6	94.6	4.5
12月末	28,616	△ 0.7	1,992.33	1.7	94.4	4.7
2022年 1 月末	27,549	△ 4.4	1,895.93	△ 3.2	94.8	4.7
2 月末	27,255	△ 5.5	1,886.93	△ 3.7	94.5	4.7
3 月末	27,860	△ 3.4	1,946.40	△ 0.6	93.6	6.1
(期末) 2022年 4 月15日	26,681	△ 7.5	1,896.31	△ 3.2	93.1	5.5

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2021. 4. 16 ~ 2022. 4. 15)

■国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、新型コロナウイルスの感染拡大で行動制限措置がとられたことや、内閣支持率の低下を受けて政局不透明感が増したことなどから、上値の重い展開となりました。2021年8月下旬からは国内の感染状況が改善したことを受けて株価が上昇すると、9月初めには菅首相の自民党総裁選挙への不出馬表明を好感して急騰しました。しかし10月に入ると、新政権への期待がやや後退したことや中国の大手不動産会社の信用不安などが懸念され、株価は反落しました。10月末には、衆議院議員選挙で自民党が過半数を大きく上回る議席を維持したことが好感される局面もありましたが、年末にかけては、新型コロナウイルスの新変異株への警戒感が広がったことなどから上値の重い展開となりました。2022年に入ると、F R B（米国連邦準備制度理事会）による金融引き締めへの懸念が高まり、金利が上昇して世界的に成長株が急落しました。2月下旬からは、ロシアによるウクライナ侵攻で資源価格が急騰したことなどもあり、全体的に株価下落が加速しました。3月中旬以降は、F R Bの利上げ決定で悪材料出尽くし観測が強まったことや、ロシアとウクライナによる停戦協議の進展期待もあり、国内株式市況は急反発しました。しかし4月に入ると、F R Bによる金融引き締めペース加速の懸念による金利上昇から株価は下落しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「静岡ベンチマーク・マザーファンド」の受益証券組入比率を高位に維持します。

■静岡ベンチマーク・マザーファンド

当ファンドの運用の基本方針に基づき、静岡企業の株式へ投資することにより、中長期的な信託財産の成長をめざした運用を継続してまいります。

ポートフォリオについて

(2021. 4. 16 ~ 2022. 4. 15)

■当ファンド

「静岡ベンチマーク・マザーファンド」の受益証券組入比率は当作成期を通じておおむね100%程度を維持しました。

■静岡ベンチマーク・マザーファンド

運用の基本方針に基づき、静岡企業に投資を行いました。

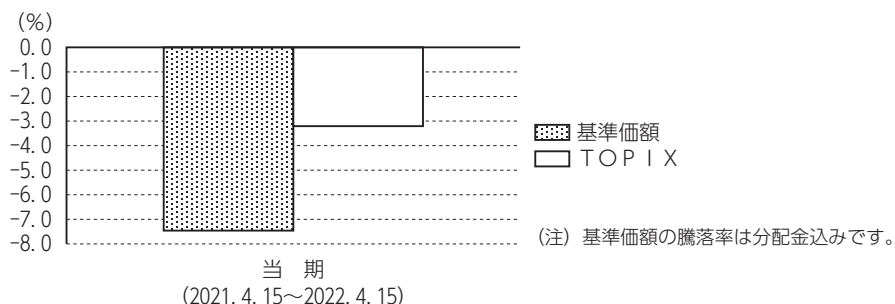
静岡県内に本社を置いている企業の株式に対しては、時価総額に応じた投資比率で、静岡県に進出し雇用を創出している企業の株式に対しては、時価総額と県内従業員数など静岡県との関連度を考慮して銘柄選定を行い、それぞれの時価総額に応じた比率に一定の値を乗じた投資比率で組み入れを行いました。

株式の業種構成は、静岡県を本拠地とする企業、もしくは進出企業が多い輸送用機器やその他製品等の比率がTOPIXと比較して高くなっております。また、当作成期を通じて株式実質組入比率（株式先物を含む。）を98~100%程度としました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2021年4月16日 ～2022年4月15日	
当期分配金（税込み）	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	23,846

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

「静岡ベンチマーク・マザーファンド」の受益証券組入比率を高位に維持します。

■静岡ベンチマーク・マザーファンド

当ファンドの運用の基本方針に基づき、静岡企業の株式へ投資することにより、中長期的な信託財産の成長をめざした運用を継続してまいります。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2021. 4. 16～2022. 4. 15)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	313円	1. 078%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は29, 012円です。
(投 信 会 社)	(160)	(0. 550)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(128)	(0. 440)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(26)	(0. 088)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	4	0. 013	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(3)	(0. 012)	
(先物・オプション)	(1)	(0. 002)	
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0. 005	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(2)	(0. 005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	318	1. 097	

(注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

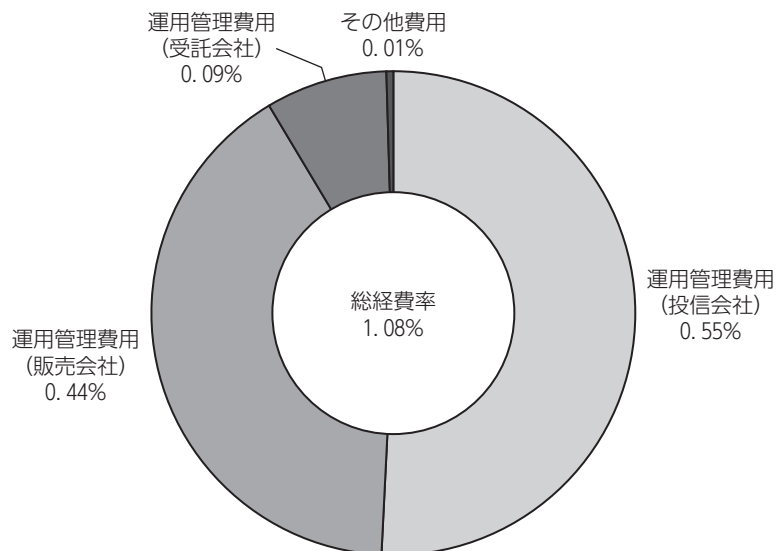
(注 3) 各比率は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第 3 位未満を四捨五入してあります。

(注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1 万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.08%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

DC 静岡ベンチマーク・ファンド

■売買および取引の状況
親投資信託受益証券の設定・解約状況
(2021年 4月16日から2022年 4月15日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
静岡ベンチ マーク・ マザーファンド	7, 151	22, 886	18, 033	57, 855

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合
(2021年 4月16日から2022年 4月15日まで)

項 目	当 期
	静岡ベンチマーク・マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	508, 680千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2, 821, 100千円
(c) 売買高比率 (a)／(b)	0. 18

(注 1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注 2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等
(1) ベビーファンドにおける当作成期中の利害関係人との
取引状況
当作成期中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける当作成期中の利害関係人との
取引状況
(2021年 4月16日から2022年 4月15日まで)

決 算 期	当 期					
区 分	買付額等			売付額等		
	A	うち利害 関係人との 取引状況 B	B/A	C	うち利害 関係人との 取引状況 D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式	246	—	—	262	—	—
株式先物取引	1, 010	1, 010	100. 0	898	898	100. 0
コール・ローン	41, 710	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合19. 8%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファン
ドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 当作成期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人
への支払比率
(2021年 4月16日から2022年 4月15日まで)

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	80千円
うち利害関係人への支払額 (B)	10千円
(B)／(A)	13. 3%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支
払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第 1 項に規定される
利害関係人であり、当作成期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証
券です。

■組入資産明細表
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
静岡ベンチマーク・ マザーファンド	195, 002	184, 120	545, 660

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年 4月15日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
静岡ベンチマーク・ マザーファンド	545, 660	99. 3
コール・ローン等、その他	3, 640	0. 7
投資信託財産総額	549, 301	100. 0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年 4 月15日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	549,301,279円
コール・ローン等	3,285,918
静岡ベンチマーク・マザーファンド (評価額)	545,660,361
未収入金	355,000
(B) 負債	3,137,633
未払信託報酬	3,121,800
その他未払費用	15,833
(C) 純資産総額 (A - B)	546,163,646
元本	204,701,241
次期繰越損益金	341,462,405
(D) 受益権総口数	204,701,241口
1 万口当り基準価額 (C / D)	26,681円

* 期首における元本額は214,465,861円、当作成期間中における追加設定元本額は12,333,368円、同解約元本額は22,097,988円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は26,681円です。

■収益分配金の計算過程 (総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	287,273,028
(d) 分配準備積立金	200,875,276
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	488,148,304
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	488,148,304
(h) 受益権総口数	204,701,241口

■損益の状況

当期 自 2021年 4月16日 至 2022年 4月15日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 375円
受取利息	24
支払利息	△ 399
(B) 有価証券売買損益	△ 37,582,484
売買益	1,943,829
売買損	△ 39,526,313
(C) 信託報酬等	△ 6,468,851
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 44,051,710
(E) 前期繰越損益金	200,874,859
(F) 追加信託差損益金	184,639,256
(配当等相当額)	(287,273,028)
(売買損益相当額)	(△ 102,633,772)
(G) 合計 (D + E + F)	341,462,405
次期繰越損益金 (G)	341,462,405
追加信託差損益金	184,639,256
(配当等相当額)	(287,273,028)
(売買損益相当額)	(△ 102,633,772)
分配準備積立金	200,875,276
繰越損益金	△ 44,052,127

(注 1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注 2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注 3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

静岡ベンチマーク・マザーファンド

運用報告書 第20期 (決算日 2022年4月15日)

(作成対象期間 2021年4月16日～2022年4月15日)

静岡ベンチマーク・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

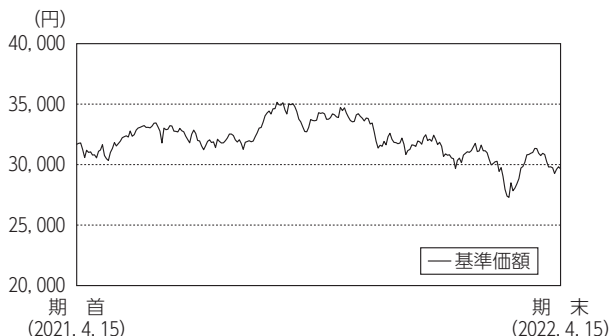
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式
株式組入制限	無制限

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基 準 価 額		T O P I X		株 式 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率
	円	騰落率	(参考指数)	騰落率		
(期首) 2021年 4月15日	31,680	—	1,959.13	—	90.3	1.2
4月末	30,556	△ 3.5	1,898.24	△ 3.1	92.9	6.5
5月末	32,344	2.1	1,922.98	△ 1.8	92.8	6.8
6月末	32,752	3.4	1,943.57	△ 0.8	93.2	6.2
7月末	31,403	△ 0.9	1,901.08	△ 3.0	93.3	6.4
8月末	32,613	2.9	1,960.70	0.1	93.6	5.7
9月末	34,389	8.6	2,030.16	3.6	94.5	4.4
10月末	33,894	7.0	2,001.18	2.1	94.7	5.0
11月末	31,368	△ 1.0	1,928.35	△ 1.6	94.7	4.5
12月末	31,687	0.0	1,992.33	1.7	94.4	4.7
2022年 1月末	30,534	△ 3.6	1,895.93	△ 3.2	94.9	4.7
2月末	30,232	△ 4.6	1,886.93	△ 3.7	94.5	4.7
3月末	30,933	△ 2.4	1,946.40	△ 0.6	93.6	6.1
(期末) 2022年 4月15日	29,636	△ 6.5	1,896.31	△ 3.2	93.2	5.5

(注 1) 騰落率は期首比。

(注 2) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。
上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注 3) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：31,680円 期末：29,636円 騰落率：△6.5%

【基準価額の主な変動要因】

ロシアによるウクライナ侵攻や米国の金融引き締めへの懸念を背景に、国内株式市況が軟調に推移したことから、当ファンドに組み入れている静岡企業（※）によるポートフォリオが下落し、基準価額は下落しました。

※静岡県内に本社を置いている企業と、静岡県に進出し雇用を創出している企業

◆投資環境について

○国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、新型コロナウイルスの感染拡大で行動制限措置がとられたことや、内閣支持率の低下を受けて政局不透明感が増したことなどから、上値の重い展開となりました。2021年8月下旬からは国内の感染状況が改善したことを受けて株価が上昇すると、9月初めには菅首相の自民党総選挙への不出馬表明を好感して急騰しました。しかし10月に入ると、新政権への期待がやや後退したことや中国の大手不動産会社の信用不安などが懸念され、株価は反落しました。10月末には、衆議院議員選挙で自民党が過半数を大きく上回る議席を維持したことが好感される局面もありましたが、年末にかけては、新型コロナウイルスの新変異株への警戒感が広がったことなどから上値の重い展開となりました。2022年に入ると、F R B（米国連邦準備制度理事会）による金融引き締めへの懸念が高まり、金利が上昇して世界的に成長株が急落しました。2月下旬からは、ロシアによるウクライナ侵攻で資源価格が急騰したことなどもあり、全体的に株価下落が加速しました。3月中旬以降は、F R Bの利上げ決定で悪材料出尽くし観測が強まったことや、ロシアとウクライナによる停戦協議の進展期待もあり、国内株式市況は急反発しました。しかし4月に入ると、F R Bによる金融引き締めペース加速の懸念による金利上昇から株価は下落しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンドの運用の基本方針に基づき、静岡企業の株式へ投資することにより、中長期的な信託財産の成長をめざした運用を継続してまいります。

◆ポートフォリオについて

運用の基本方針に基づき、静岡企業に投資を行いました。

静岡県内に本社を置いている企業の株式に対しては、時価総額に応じた投資比率で、静岡県に進出し雇用を創出している企業の株式に対しては、時価総額と県内従業員数など静岡県との関連度を考慮して銘柄選定を行い、それぞれの時価総額に応じた比率に一定の値を乗じた投資比率で組み入れを行いました。

株式の業種構成は、静岡県を本拠地とする企業、もしくは進出企業が多い輸送用機器やその他製品等の比率がT O P I Xと比較して高くなっております。また、当作成期を通じて株式実質組入比率（株式先物を含む。）を98～100%程度としました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当作成期の当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率は、それぞれ△6.5%、△3.2%となりました。

《今後の運用方針》

当ファンドの運用の基本方針に基づき、静岡企業の株式へ投資することにより、中長期的な信託財産の成長をめざした運用を継続してまいります。

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (株式) (先物・オプション)	4円 (4) (1)
有価証券取引税	—
その他費用	—
合 計	4

(注 1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。
(注 2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

(1) 株 式
(2021年 4 月16日から2022年 4 月15日まで)

	買 付		売 付	
	株 数	金 額	株 数	金 額
国内	千株	千円	千株	千円
	(58. 5 3. 5)	(246, 655 —)	102. 2	262, 025

(注 1) 金額は受渡し代金。
(注 2) ()内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。
(注 3) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 先物取引の種別取引状況
(2021年 4 月16日から2022年 4 月15日まで)

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
国内		百万円	百万円	百万円	百万円
	株式先物取引	1, 010	898	—	—

(注 1) 金額は受渡し代金。
(注 2) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

株 式
(2021年 4 月16日から2022年 4 月15日まで)

当				期					
買		付		売		付			
銘	柄	株 数	金 額	平均単価	銘	柄	株 数	金 額	平均単価
		千株	千円	円			千株	千円	円
中外製薬		18.1	75,068	4,147	本田技研		11.3	40,716	3,603
スズキ		14.2	60,515	4,261	中外製薬		7	28,088	4,012
ローランド		6.9	34,874	5,054	浜松ホトニクス		3.8	27,499	7,236
ヤマハ		5.3	30,605	5,774	ヤマハ発動機		7	21,943	3,134
浜松ホトニクス		3.4	20,021	5,888	スズキ		3.8	19,764	5,201
ウシオ電機		6.2	11,981	1,932	富士フイルムH L D G S		1.9	16,594	8,733
本田技研		3.1	10,073	3,249	ヤマハ		1.9	12,960	6,821
フジオーゼックス		0.5	1,797	3,594	静岡銀行		11.3	9,789	866
A S T I		0.8	1,716	2,145	トッパン・フォームズ		6.1	9,151	1,500
					協和キリン		2.1	7,447	3,546

(注 1) 金額は受渡し代金。
(注 2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内株式

銘 柄	期 首 当 期 末			銘 柄	期 首 当 期 末			銘 柄	期 首 当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額		株 数	株 数	評 価 額		株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円		千株	千株	千円		千株	千株	千円
建設業 (3.0%)				電気機器 (14.6%)				アイ・テック	3.4	3.3	4,966
積水ハウス	36.2	33.6	74,373	明電舎	2.4	2.2	5,123	小売業 (1.3%)			
トーエネック	1	1	3,195	東芝テック	3.1	2.8	12,670	ティールライフ	1.1	—	—
食料品 (1.8%)				日東工業	2.3	2.3	3,484	スクロール	9.2	8.6	6,794
伊藤ハム米久 HLDGS	15.7	14.6	9,446	ジーエス・ユアサ コーポ	4.4	4.1	8,958	マックスバリュ東海	9.7	9	23,256
伊藤園	4.7	4.4	22,616	ローランドディー・ジー	3.3	3.1	9,935	エンチヨー	1.5	1.5	1,518
焼津水産化工	3.5	3.5	3,118	協立電機	1.2	1.2	2,272	マキヤ	2.1	2.1	1,497
はごろもフーズ	2.7	2.5	7,637	A S T I	—	0.8	1,368	銀行業 (6.0%)			
AFC-HD アムスライフサイエン	3.7	3.7	2,682	スタンレー電気	9.2	8.5	17,943	静岡銀行	157.5	146.2	124,708
繊維製品 (1.9%)				ウシオ電機	—	6.2	9,932	スルガ銀行	61.4	57	23,769
東レ	86.4	80.1	49,165	浜松ホトニクス	40.6	40.2	233,160	清水銀行	3.1	2.9	4,468
パルプ・紙 (0.7%)				小糸製作所	8.5	7.9	35,313	不動産業 (0.1%)			
特種東海製紙	3.9	3.7	12,450	リコー	39.4	36.6	35,355	ヨシコン	2.1	2.1	2,328
日本製紙	6.2	5.7	5,814	輸送用機器 (28.2%)				サービス業 (1.0%)			
化学 (10.4%)				ユニプレス	2.5	—	—	ミダックホールディングス	3.5	6.6	15,879
旭化成	73.8	68.5	73,158	デイトナ	1	0.9	2,916	メイテック	1.5	1.4	9,436
共和レザー	6.5	6	3,954	ユタカ技研	3.9	3.6	6,332				
富士フイルム HLDGS	27.2	25.3	184,841	本田技研	80.1	71.9	236,766				
クミアイ化学	7	6.5	5,752	スズキ	47.8	58.2	226,281				
医薬品 (13.5%)				ヤマハ発動機	92.7	85.7	224,276				
協和キリン	28.6	26.5	75,207	日本プラスト	5.1	5.1	2,509				
中外製薬	47.3	58.4	249,017	村上開明堂	3.5	3.2	7,795				
科研製薬	2.4	2.3	8,797	エフ・シー・シー	13.9	12.9	16,395				
ツムラ	4.1	3.8	12,255	フジオーゼックス	—	0.5	1,637				
ゴム製品 (0.6%)				精密機器 (0.1%)							
横浜ゴム	9	8.3	14,193	日機装	3.9	3.9	3,159				
ガラス・土石製品 (0.3%)				その他製品 (10.6%)							
ニチアス	3.6	3.3	7,692	トッパン・フォームズ	6.1	—	—				
鉄鋼 (0.3%)				ローランド	—	6.9	30,015				
エンビプロHD	4	3.7	7,618	ヤマハ	41.3	44.7	228,417				
非鉄金属 (0.3%)				河合楽器	2.4	2.2	6,699				
日本軽金属HD	3.3	3	4,989	オカムラ	5.3	4.9	5,688				
リョービ	1.7	1.7	1,820	電気・ガス業 (0.6%)							
金属製品 (1.0%)				静岡ガス	20.2	18.7	16,175				
天龍製鋸	1.5	1.4	4,228	陸運業 (0.7%)							
リンナイ	2.7	2.5	20,300	ハマキョウレックス	5	4.7	12,868				
機械 (1.8%)				遠州トラック	2	1.9	4,085				
芝浦機械	7.9	7.4	22,866	情報・通信業 (—)							
エンシュウ	1.7	—	—	ビジネスB 太田昭和	0.8	—	—				
アマノ	4.1	3.8	7,695	卸売業 (1.3%)							
スター精密	11.9	11.1	15,750	TOKAI ホールディングス	37	34.3	29,566				

(注1) 銘柄欄の()内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注2) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。
(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 先物取引の銘柄別期末残高 (評価額)

銘 柄 別		当 期 末	
		買 建 額	売 建 額
国 内	TOPIX	百万円 151	百万円 —

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

項 目	2022年 4月15日現在	
	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	2,566,362	92.7
コール・ローン等、その他	203,133	7.3
投資信託財産総額	2,769,496	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年 4月15日現在	
項 目	当 期 末
(A) 資産	2,797,391,159円
コール・ローン等	169,303,879
株式（評価額）	2,566,362,980
未収入金	9,904,500
未収配当金	23,189,800
差入委託証拠金	28,630,000
(B) 負債	43,215,000
未払解約金	3,555,000
差入委託証拠金代用有価証券	39,660,000
(C) 純資産総額（A－B）	2,754,176,159
元本	929,323,494
次期繰越損益金	1,824,852,665
(D) 受益権総口数	929,323,494口
1万口当り基準価額（C／D）	29,636円

* 期首における元本額は990,016,009円、当作成期間中における追加設定元本額は91,585,024円、同解約元本額は152,277,539円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：
 DC 静岡ベンチマーク・ファンド 184,120,786円
 静岡ベンチマーク・ファンド 745,202,708円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は29,636円です。

■損益の状況

当期 自 2021年 4月16日 至 2022年 4月15日	
項 目	当 期
(A) 配当等収益	66,831,231円
受取配当金	66,881,950
受取利息	894
その他収益金	206
支払利息	△ 51,819
(B) 有価証券売買損益	△ 251,562,261
売買益	44,336,530
売買損	△ 295,898,791
(C) 先物取引等損益	634,100
取引益	22,040,450
取引損	△ 21,406,350
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	△ 184,096,930
(E) 前期繰越損益金	2,146,356,080
(F) 解約差損益金	△ 337,307,461
(G) 追加信託差損益金	199,900,976
(H) 合計（D＋E＋F＋G）	1,824,852,665
次期繰越損益金（H）	1,824,852,665

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

東証株価指数（TOPIX）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。